

教科名		自立活動	2	学年
単元名		ボール転がしゲームをしよう		
単元の目標		手すりを使いながら一定のリズムで階段を昇ることができる。		
児童の実態	A 児	個人情報のため省略		
児童の 個別目標	A 児	・手すりを使いながら一定のリズムで階段を昇ることができる。（身体の動き） ・活動に集中して取り組むことができる。（心理的な安定）		

活動内容	児童の予想される言動	具体的な手立て
・ 始めの挨拶 (A児)	・ 挨拶の際に、集中できずに周りに興味を示してしまうことが予想される。	・ A 児の座席を教師の前にすることで、挨拶に意識できるようにする。
・ ボール転がしゲームをしよう。	・ 階段を昇る際に足元を見ずに昇り、リズムよく昇れないことが予想される。	・ 手をつないで昇り、リズムをとれるように言葉かけを行う。 ・ ボールを階段上から転がし、的に入れる活動を通して、注視できるようにする。
・ ゆったりリラックスしよう。	・ 身体を伸ばして、寝ることができないことが予想される。	・ リラックスができるように、肩を軽くたたいたりして、落ち着けるようにする。
・ 終わりの挨拶	・ 挨拶の際に、集中できずに周りに興味を示してしまうことが予想される。	・ A 児の座席を教師の前にすることで、挨拶に意識できるようにする。

時配	活動内容と教師の支援	該当児童
1分	○始めの挨拶 ・挨拶と出席確認をする。	
12分	○ボール転がしゲームをしよう。 ・階段下に移動する。児童が座る椅子を用意する。転がすボールの的を用意する。 ・児童が階段を踊り場まで昇り、踊り場からボールを転がす。教師は、手をつないで一緒に昇ったり、リズムが取れるように「一、二」と言葉かけを行ったりする。 ・的に向かって、ボールを転がし、上手に入ったときは大いに称賛する。 ・ボールを注視できるように、的に果物のイラストを付け、どこに当たったか確認するようにする。 ・階段を降りる際には、足元にボールを持っていき、階段を注視できるようにする。 ・一人、二回は取り組められるようにする。	
5分	○ゆったりリラックスをしよう。 ・マットを用意して、横になれる場を用意する。 ・ゆったりとできるように曲をかけたり、肩をとんとんして落ち着けるようにしたりする。	
2分	○終わりの挨拶 ・教室に戻り、終わりの挨拶を行う ・本日の振り返りと次時の確認を行う。 ・着席を確認して、挨拶を行う。	

A 児	・ボール転がしゲームに取り組む際には、真っ先に立ち上がって階段を上ろうとする意欲的な様子が見られた。 ・階段を昇る際に言葉かけやボールを足元に向けるが、注視が難しい様子が見られた。 ・曲をかけることで、横になる様子からゆったりとする時間という認識はもてていると思える。肩や胸をゆっくりたくことで、落ち着いて横になる様子が見られた。
-----	---

- ゲームの要素を入れた活動であったため、児童が楽しみながら階段を登る練習ができていた。
- ボールを階段上から転がす活動の際、ボールの動きを見ることができていたことから、足元を見ることにもつながっていく学習になっていた。
- リラックスする時間を設けることで、活動の終わりの挨拶には、落ち着いて取り組むことができた。
- 重複障害をもつ児童に対する身体的アプローチの活動だったため、理学療法士と連携して取り組むほうがよかった。
- 階段を登る際に、右側通行を意識させる試みをしてよかった。